

技 が輝く

伝統ある「津軽塗」

津軽塗は、約三百六十年前の江戸時代元禄年間から始まった、国の指定を受けている青森県の伝統的工芸品です。

木地に約五十の工程を経て完成する津軽塗は、「研ぎ出し変わり塗」という技法を用いています。この技法は、とても多くの手間と時間を費やすた



津軽塗

め、他産地ではほとんど用いられなくなっています。丁寧に、何度も塗りりと研ぎを繰り返すことで「馬鹿塗」とも呼ばれる津軽塗は、「漆を塗り重ねるのとともに、職人の心をも塗り込めているようだ」と言われています。

技術のある津軽塗職人が作った津軽の新しい漆器「津軽うるおい漆」

この津軽塗の職人が結集し、行政



津軽うるおい漆

や支援機関のサポートにより、今年度、新たな工芸品「津軽うるおい漆」を開発しました。

「津軽うるおい漆」は、工程上、必ず漆を使わなければなりません。木地や下地、模様は自由にしていきます。このため、これまでの津軽塗とは違った形や模様表現の可能性を秘めています。

十一月に県内で開催した「津軽塗フェア」で、さまざまな表情の「津軽うるおい漆」をお披露目したところ、「艶のない質感がいい」「凹凸があり持ちやすい」「気軽に使える」などの感想が寄せられ、来場者の評判も上々でした。

「津軽塗」と「津軽うるおい漆」

津軽塗は、昭和五十年に国の伝統的工芸品として指定されました。伝



作業風景

統を守りながら作り続ける「津軽塗」と、お客様の要望を取り入れながら新たな表現に取り組む「津軽うるおい漆」。それぞれの良さを生かして、相乗効果で両方のお客様に愛されることを目指しています。

お問い合わせ

青森県漆器協同組合連合会

TEL 〇一七二―三五―三六二九

青森県

伝統的工芸品「津軽塗」と
新商品「津軽うるおい漆」